

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成31年 3月11日更新

事務事業名		コミュニティバス利便性向上推進協議会参画事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	5	都市基盤の健康				所属部	総務部	課長名	大茂 竜二
	施策	25	公共交通の充実				所属課	企画課	担当者名	鶴田 裕之
	施策の柱	68	公共交通の利便性の向上				所属班	企画広報班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款2	項1	目11	事業連番11627	根拠法令	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 道路運送法	成果優先度評価結果	⑤
									コスト削減優先度評価結果	⑨
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 26 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	バスロケーションシステムを導入し、バスの位置情報の把握及び利用者への情報提供（スマートフォン等による）を行い、レターバスの利便性向上を図る。なお、本事業は「広域連携プロジェクト（スクラムチャレンジ）推進事業」を活用している。導入後については、システムの利便性の向上及びシステムの維持管理を行う。
【業務の流れ】	バスロケーションシステムの導入に賛同する自治体で構成する協議会（または委員会）への参画。費用負担、開発・運営体制等についての検討・協議。システムの導入及び維持管理。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	合志市地域公共交通協議会委員より、レターバスの遅延対策（バスロケ導入及びダイヤ調整）について要望があっている。 ・利用者から「レターバスが来ない」との苦情があっている。 ・乗務員は、ダイヤ遅延による運転業務の負担が大きくなっている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO)		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
協議会へ参画しバスロケーションシステムの維持管理を行った。		協議会への参画
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 協議会への参画	回	コミュニティバス利便性向上推進協議会負担金の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
⇒ ア 市民	人	⇒ ア 市民
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
⇒ ア コミュニティバスを利用しやすくなる	%	⇒ ア 市が委託しているバスや乗り合いタクシーのいずれかを利用したことがあると答えた市民の割合(市民アンケートより)
* ③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込
① 活動指標	ア 回		1	1	2	1	2	2	2	2
② 対象指標	ア 人		60,008	61,022	60,900	61,652	61,500	62,000	62,500	63,000
③ 成果指標	ア %		13.5	16.1	15	17.4	15.5	16	16.5	17
投 入 費 用 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円		443	184	245	189	189	189
	(A) 事業費計		千円	0	443	184	245	189	189	189
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円	0	0	0	0	0	0	0
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	2	2	3	2	3	3	3
		延べ業務時間	時間	100	110	100	110	100	100	100
	(B) 人件費計		千円	371	0	398	435	398	398	398
トータルコスト(A)+(B)			千円	371	443	582	680	587	587	587

事務事業名	コミュニティバス利便性向上推進協議会参画事業	所属部	総務部	所属課	企画課
-------	------------------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 協議会に参画しバスロケーションシステムの維持管理が徹底できればレターバスの利便性向上が図られる。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 バスロケーションシステムをより利用し易くすることで、レターバスの利便性向上が図られる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 菊陽町との協定により経費を負担する事業であるため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 維持管理費のコストについては固定費であり、菊陽町との協定による費用負担割合（1/2）によって負担しているため削減余地がない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人員。業務時間数で実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 公共交通に関する事業であり、全市民が利用できるため公益性が高い。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 協議会の負担金及びコミュニティバスの情報提供は行政の役割であり適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

バスロケーションシステムの情報提供により利用者の利便性向上に繋がったと共に、システムのデータにより実運行時間に沿ったバスの現在位置を提供することが出来た。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

<